

平成30年度 2月定例教育委員会議事録

1. 日 時 平成31年2月27日(水) 13:30~15:45
2. 場 所 コミセンおの 205号室
3. 出席者 教育長 陰山 茂
教育委員 西村賢一・小林道美・河嶋栄里子・藤本真理
事務局 橋本教育管理部長・小西教育指導部長
上原教育総務課長・松田いきいき社会創造課長
駒田スポーツ振興課長・教育総務課 谷口

4. 会議内容

(1) 開会あいさつ 教育長

(2) 前回議事録確認 全委員一致で承認

(3) 協議(報告)事項

各課長より資料により主要事業の進捗状況(今年度の総括)等の説明を行い、教育委員の意見を聞く。

①新たな教育改革に向けて(小中一貫教育のさらなる進展・英語教育)

- ・今年度9年生の卒業生が7年生になった時に小中一貫教育が始まりましたので、ちょうど一区切りになります。各校で年間3回行われる運営委員会では、PTAの方、地域の自治会長さんにお集まりいただき、ご意見を聴いております。小中一貫教育について、当初はさまざまなご意見がありましたが、現在は認知されており、小中一貫教育は軌道に乗ったと思います。
- ・小学校英語については、具体的な指導方法、単語数等について議論を重ね、最終的に「フォニックス」の技法を取り入れることに決定しました。小野小学校・小野東小学校・市場小学校・大部小学校4校共に1名ずつ専科教員が加配されそうですので、今後4名を中心としたスタイルで英語教育を進めていきます。

(課題)

- ・小学校の英語教育をどう進化させていくのか。
- ・コミュニティスクール的に、地域の方のご意見を十分に聴けるシステムをどう構築するのか。
- ・大阪府では「災害時や犯罪に遭った時に子どもたちと連絡が取れるように」とスマートフォンの校内への持ち込みを認めました。文科省でも、今まで原

則禁止であった学校へのスマートフォン持ち込みの見直しを検討するという新聞記事が載っていました。小野市では、川島隆太教授の脳科学理論に基づき、スマートフォンを使用する弊害、災害時には児童の引き渡しなど家庭と十分連携した対応が出来るということから、スマートフォンの校内への持ち込みについて、3月の校長会で十分協議の上、小野市のスタイルを決定します。原則としてスマートフォン持ち込み禁止にしたいと考えています。

【意見】

- ・ 小学校英語について、どの程度の習得目標を掲げているのか、何年生でここまで、といった具体的なことを決めていかないといけないと思います。
- ・ スマートフォンの持ち込みについては、講演会等で、災害時にスマートフォンがない場合の危険性ばかりを言いますが、10数年前から川島隆太教授がおっしゃっているのは、脳の前頭前野の発達には、スマートフォンは絶対にいけないということ、取り返しがつかないということです。学校へのスマートフォンの持ち込み禁止ではなく、スマートフォンを持たせないということです。持たせるのであれば、親にその責任を持つように学校からも教育委員会からも徹底して言わないといけない。
- ・ 小中一貫校について3年経っての効果をもう少し具体的に教えて下さい。
→ 小学校と中学校の「壁」が無くなったと感じています。小野市では「ふれあいの日」という小中交流の日を設け、小学校6年生が中学校舎で一日過ごしています。小中一貫校では年間を通じて交流しており、違和感も抵抗感もなく、子どもたちは溶け込んでいます。中一ギャップと言われるものが、小野市では少なくなったように思います。ただし、はじめが大切であり、中学校に入れば部活が始まる、先生も教科ごとに変わる等のはじめは、今後もつけさせたいと考えています。学力面では、到達度テストの時期の見直しを検討していきます。12月の暮れから新年早々にテストを実施し、3月にテスト結果が返ってきます。3学期末までの残り少ない時期に、到達していない部分の補充学習をしていましたので、余裕を持って行いたいという意見がありました。今後、テストの実施時期を検討し、子どもたちの学力補充という面からもアプローチしていきたいと考えています。
- ・ 数字に表れる学力は上がりましたか。
→ 下がってはいないと思います。不登校の対応についてですが、今までは学校に溶け込めずに不登校になっていた子どもが多かったのですが、最近では病気や発達障害のある子どもに多く見られます。以前のように、部活動が嫌だから、先生と合わないから休む、という子どもは若干少なくなっているようです。いろんな要因が絡んでおり、詳しく数字的なもので表すのは難しい状況です。
- ・ 中一ギャップの子どもがいて、不登校の子が多いかなと思いましたが、どう

でしょうか。

→中一ギャップによる人間関係の構築ができないという子どもは少なくなっていると思います。反対に、夜にスマホを使い過ぎて昼夜が逆転したというゲームによるトラブルで人間関係がうまくいかなくなるという弊害が出てきていると思います。今後は、保護者に対する指導、子育て支援、研修会も必要になってくると考えます。社会的な現象かもしれませんが、未熟なまま保護者になった親御さんがいらっしゃるように思います。子育てについては各校のPTAで取り上げていただけたらと思います。各校のPTAではスマートフォンの使い方についての講演を実施していますが、「スマートフォンを持たせる」「持たせない」という観点での議論を進めたいと思います。3月校長会で小野市の方向性を決め、4月の中旬から末頃に開催されるPTA総会で、川島隆太教授の脳科学理論や小野市のスタイルを保護者にPRし、スマートフォンを持たせるのであれば、同時に保護者に責任も持ってもらいたいと考えます。

- ・ 連合PTA研修会の場で、お話させていただきましたが、残念ながら、スマートフォンを持たせることを前提としている保護者が多く、先に持たせて使い方を教える方がいいのではという考え方の方が大半でした。
- ・ 小野市としては講演という形にこだわらず、分かりやすく、一年かけても、スマートフォンの弊害を周知していかなければいけません。
- ・ 保護者が特に危機感を持たないと変わらないと思います。
- ・ 全国的な風潮がスマートフォンをうまく持たせましょう、という感じです。それは小野市のスタイルとは違うということを警鐘していかないといけないと考えます。
- ・ 小中一貫教育について、川島隆太教授の言われている脳の発達の線をよく覚えておかないといけない。10歳から脳がまた急激に発達するというお話を元に5年生を軸にしています。ですから、河合小学校では5年生を最上級生にし、自立心を高めるようにしています。自然学校も旅行会社に任せるのではなく、子どもたちが企画しています。
- ・ テレビで観た日本一学力の優秀な小学校を紹介します。人口2,600人ほどの秋田県の東成瀬村にある東成瀬小学校は児童数約100人です。子どもの教育を大切にしないといけないということで、ひとりひとりの個性を見極め、長所を伸ばす、子どもの能力を潰すということをしません。小中学校で連携し、子どもを見守っています。子どもの学力状況を絶えず把握し、つまづきがあった場合は、とことんフォローしています。図書費が1児童当たり6,000円。図書館もなく図書室もないので、各室に図書を置いているそうです。授業の始まる前の10分間の読書、コミュニケーション能力の向上にも力を入れ、グループ討議の学習もしています。また、宿題とは別に、子

子どもが自ら考えた家での学習課題を親が評価し、学校に提出する流れで親との連携も密になっています。常に自尊心を高くさせるようにしています。小野市も同じようなことをしていますが、この小学校は結果を出しており素晴らしいと思いました。

- ・東成瀬小学校の家庭環境のあり方を教えてください。
→共働きが90%ですが、3世代で、さらに地域との繋がりがあり、子どもたちを誰かが見ている環境です。
- ・到達度テストのフォローアップシートの活用についてはどうですか。
→結果返却後に実施しているのですが、3学期終わりまでという時間の制限があります。ですから到達度テストの実施時期を考えたいと思います。
→積み上げが大事です。低学年から徹底的に積んでいかないといけないと思います。
- ・河合の5・4制を見たいということで養父市が視察に来られています。何か始めようという時に小野市の先生方は、同じ方向を向いて頑張れることが強みです。今一度、なぜおの検定なのか、なぜ小中一貫教育なのかということ全員が考え、ベクトルを合わせて行かないといけません。
- ・英語の専科教員について教えてください。
→専科教員は英語の免許をお持ちの方で、小野市は今後フォニックスを取り入れて行くのですが、それに同意、協力してくれる方です。小野市の英語を引き継げるよう、同じ学校にもう1名配置しています。さらに、専科教員任せにせず、担任の先生もサポートする必要があります。将来、専科の先生も担任に戻すといったこと等を十分考えたうえで、人員配置を人事異動で行っているところです。
- ・英語について中学校の先生、小学校の先生の関わりはどうですか。
→中学校の先生は、小学校英語の教科書がまだできていないこともあり、どこまで教えるのか、フォニックスを継承していくのか等、まだはっきりと見えていないようです。十分議論はしてきたのですが、まだベクトル合わせの途中ですので、もう少し時間がかかると思います。
- ・図書室には英語の図書は置かれていますか。
→調べます。
→英語での本の読み聞かせ、ブックママの英語版を希望します。

②校務支援システムを運用した情報共有体制の強化と早期対応

- ・小、中学校での情報共有による支援・指導体制の構築については、校務支援システムの利用が定着してきました。ペーパーレスの会議が行われ、情報共有に非常に役立っているとのことのご意見がありました。
- ・今後さらに、学校からの『報・連・相』や、いじめ、問題行動等の『4号報

告』にも導入していきたいと考えています。

- ・小学校と中学校の情報共有、例えば小学校の子どもの情報を、中学校にどれだけ受け渡せるのか、これまでの指導歴等、今後も、情報共有できるようにしていくことが今後の課題と考えています。

【意見】

- ・適応教室についてお話を聞きました。不登校の子どもが今10数人いるそうです。距離的な問題で送り迎えが必要等で、通えない子どももたくさんいますが、適応教室の発信と教育委員会、学校側の連携が取れていることがあります。問題を抱える生徒について先生方もずっと見守って下さっている姿勢をお話から感じることができました。

③学校施設長寿命化対策事業

- ・小野南中学校長寿命化改良事業については、検討委員会を2月27日と3月25日に開催し、改修計画案を取りまとめます。

④学校施設整備事業

- ・コンクリートブロック塀改修工事について、2月末に工事費の支払いが完了することから、3月に国庫補助金の実績報告書を提出します。

⑤学校給食に関するアンケート

- ・昨年12月に小・中・特別支援学校・幼稚園の保護者を対象に、「学校給食に関するアンケート」を行いました。
- ・回答者数3,726人、約78%の回収率でした。
- ・アンケート結果は、「3月給食だより」で保護者に報告します。
- ・平成30年4月以降の給食の味・量・栄養面・献立内容・地産地消・衛生面・給食費の7項目について、良い（不満はない）、どちらとも言えない、悪い（改善すべき）で評価してもらいました。
- ・味・栄養面・献立内容・衛生面は約70%が良いという意見で、逆に悪いという意見は約2%で、ある程度満足しているという結果でした。
- ・量については、8.4%が悪いという意見で、「量が多くて時間内に食べることができない。」「量が少ないので増やしてほしい。」という意見が半々ずつあり、量については課題があると考えています。
- ・学校給食は、学校給食法に定める学校給食実施基準に基づき、必要カロリー等が幼稚園児から中学生まで5段階で決められており、この基準にあわせて献立を作成し、各年代にあわせて配缶量を調節しています。副食3品で必要なカロリーを調節していることから、副食2品の時と比べると1品当たりの量は少し減ることになります。

- ・頂いた意見を参考に引き続き、安全・安心でおいしい給食づくりに努めます。

⑥堀井城跡整備事業

- ・キタイ設計（株）が契約金額1,404万円で、平成30年7月11日から平成31年2月28日までの期間で実施設計を行いました。
- ・堀井城跡整備工事その1は、前田土木が契約金額2,862万円、工期は平成30年10月11日から平成31年3月20日までで実施しています。
- ・地権者との協議も終わり、3月中に所有権移転登記事務を行います。

【意見】

- ・県の地域創生交付金はいくらですか。
→小野市全体で平成30年度と平成31年度の2年間で、1億5,000万円です。
- ・堀井城の総事業費はいくらですか。
→平成30年度の補正予算が9,000万円で、平成31年度の当初予算が、2億9,000万円です。よって、合計3億8,000万円です。

⑦コミセンおのの移転事業

- ・長期計画案として、平成30年度に新コミセンおのの移転先確定、平成31年度に実施設計策定業務を行います。
- ・2月に美術陶芸室の利用状況について協議をしました。3つのサークルが備品を置かれて使用しています。新コミセンおのを整備する時には考慮する必要があります。
- ・現在、コミセンおのには47サークルがありますが、調理室や美術陶芸室といった専門性の高い部屋については、サークルとの意見交換が必要と考えます。今後、利用者の意見を伺い、必要な部分は実施設計に反映させていきたいと考えています。

【意見】

- ・和室や調理室は設けますか。
→整備する予定です。

⑧図書館の将来ビジョン策定と改修工事

- ・経年劣化に伴う「長期改修計画」と将来の市民ニーズに対応した「これからの図書館像」をリングージした「図書館長期ビジョン」を策定しました。
- ・その中から優先度の高い事業を平成30年度、平成31年度に予算要求を行いました。
- ・カーボンマネージメント強化事業に基づく実施設計は、平成30年度に実施し、平成31年度には改修工事を行います。

【意見】

- ・ 具体的に図書館の何が変わりますか。
→ 館すべての機械設備（空調）、電気設備（照明）を改修します。
- ・ 省エネになりますね。
→ ランニングコストは下がると考えます。

⑨ 学校保健体育事業の推進

- ・ 今年度は柔軟性の向上に取り組んでいます。再検証の意味で、小中学校全員の再測定結果を提出してもらっています。来月の定例教育委員会で集計結果を報告します。県教委によりますと、兵庫県は全国平均をやや下回ってはいますが大差はなく、それよりも全国平均が昭和60年頃より大幅に低下していることが問題であるため、「運動好きの子ども」を育成することが緊急の課題であるとのことでした。
- ・ 「バランスの良い朝食摂取率」70%を目標に、第2回ひまわりカード調査を1月21日から1月25日の一週間で実施しました。保育園児の保護者のコメントには、「カードに色を塗るために何か食べようという意欲が見られたため、それが続くようシール等代用してやってみよう」、「野菜が苦手なので全部塗るのは難しかったが、今回は野菜・果物も頑張ってもらいたい」、「調査期間中はバランスのよい朝食を意識できたので、毎日栄養を考えた食事づくりを心掛けたい」等がありました。地道な取り組みですが、大事なことで、今後も継続していきたいと考えています。
- ・ 先日開催されたスポーツ少年団理事会において、「団員数が減少傾向にあるため、本来校区ごとの枠を撤廃、あるいは市外児童の受け入れも検討したらどうか」等の意見が出ました。
- ・ 市教委としては、「地域で子どもたちを育てることがスポーツ少年団の大きな目的であるため、現在のルールをなし崩しにすることは、スポーツ少年団の存在意義を無くしてしまう可能性があるため、慎重に協議する必要がある」ことをお伝えしました。そこで、保護者がスポーツ少年団の活動に対してどのような意見をお持ちなのかを把握するために、3年生から6年生の保護者全員にアンケート調査を実施します。その結果をもとに、現在のスポーツ少年団の在り方を見つめなおし、より魅力的なスポーツ少年団の育成につなげていきたいと考えています。

⑩ 小野ハーフマラソン2018

- ・ 第5回大会のエントリー数は5,723名で、目標の6,500名に対し、88%の達成率でした。公募ボランティアについては、目標の500名を達成することができました。

- ・先日の実行委員会で、12月8日（日）に第6回大会を開催することが承認されましたので、今後開催に向けて準備を進めていきます。
- ・リングオブレッドから小野市へ車いす4台が寄贈される予定になっておりますので、届き次第、社会福祉協議会や病院に寄贈させていただきます。

⑪スポーツ振興課情報

- ・市内インフルエンザ状況は、2月19日現在の罹患者数が、小学生21人、中学生0人となっております。例年に比べ少ない状況です。
- ・第16回兵庫県中学校新人駅伝競走大会では、小野中学校女子が9位の成績でした。
- ・小野市スポーツ賞表彰式を2月23日、小野市うるおい交流館エクラホールで行いました。
- ・3月ハートフルウォーキングデー「第9回小野アルプス縦走ハイキング」が3月23日土曜日に開催されます。現在400名近くの申し込みがあります。最終500名を超える予想です。

(4) 次回定例教育委員会予定

3月27日（水）13時30分 205号室

(5) 閉会あいさつ 教育長